

原爆被害の実相と被爆者のいま。50人の証言を収録

核廃絶の願いをつなぐ、普及への
ご協力をお願いします。



2020年7月発売予定
A5判 520ページ
定価 2,000円+税
送料 300円

ISBN978-4-909880-16-0
C0031 ¥2000E

京都「被爆2世・3世の会」が2013年から取り組んできた、被爆体験者の聞き取りと記録。今夏50人を収録した〈上巻〉を出版することになりました。原爆投下から75年、広島・長崎の被爆者は15万人を下回り平均年齢は82歳、本書収録の貴重な証言をお寄せいただいた少なくない方も故人となりました。核廃絶にむけた展望と運動を切り開いた国連核兵器禁止条約と、その一方、危険な逆流がせめぎあういま、ノーモアヒロシマ・ナガサキの原点である被爆体験の記録・継承・発信は差し迫った課題となっています。ぜひ、手に取っていただき、普及にご協力ください。

語り継ぐ ヒロシマ・ナガサキの心

京都「被爆2世・3世の会」編



京都「被爆2世・3世の会」

京都原水爆被災者懇談会の支援のもとで2012年に発足しました。
①被爆者の被爆体験、自らの原爆に関わる人生体験を継承し、社会に発信し、核兵器の廃絶・平和な世界実現のために貢献する。
②被爆2世・3世の健康問題や生活の不安を解消し、少しでも安心できる生活の状態をめざす、という二つのを目的を柱に活動しています。



ご予約・お問い合わせはFAX・メール
または郵送で「会」または出版社へ

発行●ウインかもがわ 〒602-8119 京都市上京区出水通堀川西入 亀屋町 321
電話 075-432-3455 FAX075-432-2869 <http://www.win-k.co.jp>
発売元●かもがわ出版 〒602-8119 京都市上京区出水通堀川西入 亀屋町 321
電話 075-432-2868 FAX075-432-2869 <http://www.kamogawa.co.jp>

京都「被爆2世・3世の会」
TEL075-811-3203 FAX075-811-3213 メール web@aogiri2-3.jp
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都5階 京都原水協気付

切り取り

予約注文書	「語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心」 冊	お名前
	予約注文します。	ご住所（本の送付先） 〒
		お電話番号

語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心(上巻)

収録証言・手記

ヒロシマ編

- 1 小野 忠熙 日赤勤務の妹はガラスの破片が刺さった身体で看護にあたっていた
- 2 永原 誠 15年戦争の果てに父、母、二人の妹を奪った原子爆弾
- 3 小高美代子 胎内のわが子と共に被爆
- 澤井美千代 私たちを最後の被爆者に
- 4 高橋 正清 おやじを探し求めて歩き回った広島市の街
- 李 正道 被爆と貧しさと民族差別を乗り越えて
- 5 佐々本秋雄 私と姉と兄、原爆と枕崎台風と二重の惨禍の中で
- 6 伊藤 恒美 (仮名) じわじわと体を蝕まれてきた私の被爆体験
- 7 玉置 孝子 68年目の被爆者手帳
- 8 熊谷 好枝 家の前の街道を埋め尽くす被災者を救護して
- 9 濱 恭子 大阪空襲と広島被爆 二度の死線を越えて
- 10 鳥羽 洋子 (被爆二世) 被爆二世として体験をどう語り継ぐか
- 11 穂谷珠美子 当時7歳、親きょうだい一家六人が被爆
- 12 森川 孝子 (仮名) 母、弟、子どもたちのために生き抜いてきた
- 13 鹽谷 浩 学童疎開の空に見た原子雲
- 14 木村 民子 被爆者救済を願って闘った原爆症認定訴訟
- 15 花垣 ルミ 58年目にたどり着いた「被爆者」として生きる意味
- 16 大坪 郁子 私の戦争体験、夫の被爆体験
- 17 折場 六三 学徒動員先の広島駅貨物操車場で被爆
- 18 小迫 笑子 夫の原爆症裁判を支えて
- 19 吉田 廣子 13歳の兄の背に負われて父を探し求めた地獄の街
- 20 幸田 幸典 70年前のあの日を生き抜き今日あることに感謝
- 21 平 信行 (被爆二世) 父と母の被爆体験と私の追体験
- 22 太田 利子 (仮名) 呉海軍病院への学徒動員で被爆者救護活動
- 23 芦田 晃 被爆者として語りねばならぬ原発事故と放射能
- 24 小川 隆 (仮名) 路面電車の中で浴びた閃光
- 25 丹羽 万枝 火に追われて鉄橋を渡って逃げた6歳の記憶

ナガサキ編

- 1 中野士乃武 燃え尽くす長崎の地獄絵の中を縦断して帰り着いた私の被爆体験
- 2 川越 潔子 家族8人全員のいのちとからだを傷つけた原子爆弾
- 3 森 美子 看護婦として召集された大村海軍病院で被爆者救護に従事して被爆
- 4 白石 辰馬 海軍衛生兵として39日間 長崎の被爆者を救護
- 5 小笠原長四郎 核爆弾、被爆体験記
- 6 柴田 幸枝 闘病の日々とノーモア・ヒバクシャ訴訟
- 7 真村 信明 (仮名) 被爆のことを語れるようになった今
- 8 藤田 晴子 「ふりそでの少女」とともに
- 9 寺山 忠好 こぎゃんことがあつてよかとか
- 10 寺山 妙子 夫忠好と歩んだ日
- 11 原野 宣弘 原爆の惨禍、生きてきた証、そして平和の願いを絵に託す
- 12 木之下 登 犠牲になった級友たちに代わって語り続ける
- 13 吉田 妙子 (被爆二世) 木之下さんのこと
- 14 谷口 ちり 長崎で被爆して、今思うこと
- 15 眞柳タケ子 洋輔の声におされて語り部となる
- 16 山下 義晴 兄たちと従兄弟たちとの原爆被爆
- 17 奥田 継義 被爆した日、被爆者と自覚した日、そして認められた日
- 26 梅原 康 手記 蒼白い閃光 私の被爆体験の記録
- 27 石角 敏明 (被爆二世) おやじの原爆体験と私の思い
- 28 藤原 昌司 (仮名) 手記 黒い雨を浴びて
- 29 今津 功 澄み切った7つの川が死者で覆い尽くされた日
- 30 中西 博 生きていく人間に虫が湧く
- 31 松浦 悦枝 紙一重の差で生かされてきたことに感謝しながら
- 32 岩谷真布子 救護に当たった三姉妹の被爆体験
- 33 伊藤瑠璃子 手記 疎開先から見た燃える広島
- 34 隅田百合子 (被爆二世) 父の被爆体験、母の戦争体験
- 35 米倉 慧司 何としても生き抜く：そんな父とともに